

# ～ 進路 だ よ り ～

H. 29. 2. 10

進路指導部

## ＜大学入試センター試験＞

大学入試センター試験の全国平均点（最終集計）が発表されました。

全国 平均 点	英 語	リスニング	数学ⅠA	数学ⅡB	世界史B	日本史B	地理B	現代社会
	123.73	28.11	61.12	52.07	65.44	59.29	62.34	57.41
	国 語	物 理	化 学	生 物	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
	106.96	62.88	51.94	68.97	29.69	28.59	39.47	32.50

1月の進路だよりで述べたように、センター試験は得点率50～60%程度となるように、作問されています。しかし、当然のことながら、難易度は毎年異なります。予想通り、英語筆記は易化し、国語は難化しました。英語筆記は、今年度123.73点—昨年度112.43点＝＋11.3点となり、国語は、今年度106.96点—昨年度129.39点＝－22.43点でした。入試科目で最も重要な教科は、英語。大学入試センター試験では、筆記＋リスニングで250点となります。まず、英語の学習時間を確保することが第一です。また、数学ⅠAが＋5.85点、数学ⅡBが＋4.15点でした。特に、数学ⅡBを最後まで諦めなかった場合は、良い結果を得ることができたはずです。たとえば、三角関数・指数対数・微分積分・ベクトル・数列など、単元によりそれぞれ解法があるので、問題演習により、解法を身につけるべきです。

まだ、大学入試センターのホームページを閲覧していない人は、一度アクセスしてください。

## ＜2年次生最後の校外模擬模試＞

次の表は、昨年度の2年次進研センター早期対策模試の全国平均点です。今年度も、大きくは変わらないものと考えられるので参考としてください。

全国 平均 点	英 語	リスニング	数学ⅠA	数学ⅡB	世界史B	日本史B	地理B	現代社会
	82.7	22.5	44.7	41.7	43.7	39.9	44.1	51.6
	国 語	物 理	化 学	生 物	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
	98.1	41.1	43.0	38.3	—	20.5	23.9	20.8

また、1月の総合学力記述模試とのドッキング判定が、個人成績票に記載されます。現時点の全国での位置を知ることができます。どのように力をつけ、変化させるべきかを客観的に考えるデータとしてください。

### 3年次生へ

3年次生は、2月13日（月）から自宅学習期間となりますが、特別編成授業と同様に、午前中は8：40～10：30と10：40～12：30の110分の補習授業を行います。また、午後は小論文・面接・実技などの補習授業を行います。大学入試は、大部分60～120分間のテストが午前中に行われます。生活のリズムを変えることなく、積極的に補習を受講して、栄冠を勝ち取ろう。

センターリサーチの判定が、どうであっても最後まで諦めずに粘ろう！

特に、国公立大学の後期日程は欠席率60～80%と言われています。

何 事 に も 粘 る 姿 勢 は 、 人 生 の 糧 と な る 。

## < 1年次 アクティブ・ラーニング型モデル授業の感想 >

立命館大学の山中司先生をお招きして、2月6日(月)第6時限に青桜館で、1年次1組から3組合同でコミュニケーション英語Ⅰのアクティブ・ラーニング型モデル授業を行っていただきました。PPAPの事例から始まり、モデレーターが90秒でプレゼンターの紹介を行うペア学習を交えた授業でした。英語による発信が大切であることを体感することのできる授業でした。みなさんの感想を抜粋して、紹介します。

- ・これからの世界では、発音が下手でも文法が完璧でなくても発信していくことが大切だと学ぶことができました。動画を使った説明で、本当に分かりやすかったです。ペアになって行った学習では、将来役に立つと思うし、アピールすることを意識してやってみると上手くできました。
- ・大学の先生の授業を受けました。始めから興味を引く授業で、最後まで面白い授業でした。英語で発表することを聞くことも、面白かった。文法や発音が正しくなくても、伝えたいことは伝わったので、私も英語は積極的に使おうと思いました。
- ・今日は、貴重な体験をすることができました。親しみのある分かりやすい内容でした。後半に行ったプレゼンターとモデレーターに分かれて行った発表によって、自分たちが英語で発信しなければいけないことは、難しいことではないことが分かりました。これから、グローバル化する社会に対応するために、積極的に英語を意識し大事にしていきたいです。
- ・山中先生の話聞いて、英語は完璧に話さなければいけないのではなく、どんどん発信していくことが大事だということが理解できました。それに、英語の中身や内容が必要だということも理解できました。いかに自分から発信するかや、発信することの大切さが十分に理解できたと思うので、これらを意識して生活していきます。自分には、まだ発信しようという気持ちがないので、これを機に挑戦できるよう努力していきたい。
- ・恥ずかしがってはいは、何もできないことが分かりました。自分から積極的に発信していくことが大切で、自分で挑戦していきたいと思いました。これからの社会では、英語が必要となってくる時代なので、下手でも分かりにくくても躊躇わずに挑戦することが大切だと分かりました。
- ・今日は、大学の先生の授業を受けるということで、みんな少し緊張していましたが、いきなりPPAPの話題から始まったので、緊張感がほぐれてから授業を受けることができました。全て英語で、モデレーターがプレゼンターを紹介するという難しい内容でした。発表する人はランダムに決められるので、誰が当たるかわからない状況で、最後まで集中して授業を受けることができました。英語で発信することが大切だと分かりました。

山中司先生は、立命館大学生命科学部、薬学部の英語教育プログラムの責任者です。大学では、「プロジェクト発信型英語プログラム」というアクティブ・ラーニング型のユニークな英語教育を実践されています。立命館大学全学の国際部の副部長も兼任されており、大学全体のグローバル化に向けた改革を推進中であると伺っています。また岐阜県のご出身で、高校生時代の担任の先生は、虫賀校長先生だそうです。

放課後は、校長室で山中先生と英語科の先生方を中心とした意見交換会も行われました。もちろん、本校の生徒諸君の授業への取り組む姿勢を褒めてみえました。

将来、大学の先生となり母校でモデル授業を行うことのできる人物が生まれることを期待します。